

日本工学院八王子専門学校	開講年度	2019年度（平成31年度）	科目名	運動器・下肢	
科目基礎情報					
開設学科	柔道整復科	コース名		開設期	前期
対象年次	1年次	科目区分	必修	時間数	30時間
単位数	2単位	授業形態	講義		
教科書/教材	医歯薬出版 解剖学 改訂第2版 一社団法人 全国柔道整復学校協会 監修－ に準拠する。				
担当教員情報					
担当教員	青木 伊之		実務経験の有無・職種	有・柔道整復師	
学習目的					
外傷を学ぶ上で欠かすことのできない運動器の基礎（下肢の骨、筋、関節）の学びを通じ、運動器を詳細に知ることが柔道整復師の業務の根幹であることを理解するのがねらいである。具体的には、運動器・下肢について、個々の骨、筋の形状、骨格構成、体表形態との関係と、それらが構成する下肢の全体構造とそれらの立体的な構成のイメージングおよび機能の調節機構、骨格とその連結を理解し、各器官の名称、位置（例：骨格筋の起始・停止）、神経支配を正しく述べ、構造を機能に関連づけて理解する。					
到達目標					
柔道整復師として必要なレベルでの、下肢の各々の骨格、筋の構造とその三次元的イメージの構築、骨と骨との連結（関節）の構造と機能、それらが構成する下肢の全体構造とそれらの立体的な構成を説明できるようになることと、骨格筋の起始、停止、支配神経および作用を理解し説明できるようになることを到達目標とする。その際組織学、発生学、画像解剖学の知識とともに統合的に理解し、器官の肉眼解剖学的構造と機能に関連づけ、器官の三次元的関係を把握し、画像解剖学と対応させながら、説明できるようになる必要がある。					
教育方法等					
授業概要	プリントと模型を用いる。下肢の運動器について、骨構造、骨格筋の配置、起始、停止、支配神経、作用を正確に理解し、関節がどのような構造を持ちどのような作用があるのかを模型を用いながら具体的に理解するよう、授業を進める。併せて骨格筋の支配神経、関節機能の調節機構について理解を深める。				
注意点	柔道整復師の仕事の根幹を成す知識なので、丁寧に且つしつこく、理解出来るまで反復することが必要である。また、医療人としてのキャリア形成の観点から、授業中の私語や受講態度などには厳しく対応する。理由のない遅刻や欠席は認めない。授業に出席するだけでなく、社会への移行を前提とした受講マナーで授業に参加することを求める。また、授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。				
評価方法	種別	割合	備 考		
	試験・課題	100%	試験と課題を総合的に評価する		
	小テスト	0%			
	レポート	0%			
	成果発表 （口頭・実技）	0%			
	平常点	0%			
授業計画（1回～15回）					
回	授業内容		各回の到達目標		
1回	下肢の骨		下肢の骨全体について俯瞰し理解する。		
2回	骨盤		寛骨と仙骨の組み合わせである骨盤について理解する。		
3回	大腿骨、膝蓋骨		大腿骨、膝蓋骨の形状と特徴について理解する。		
4回	脛骨、腓骨		脛骨、腓骨の形状と特徴について理解する。		
5回	足根骨、中足骨、指骨		足根骨、中足骨、指骨の形状と特徴について理解し、足部アーチについて学ぶ。		
6回	内寛骨筋、外寛骨筋		内寛骨筋、外寛骨筋の起始、停止、支配神経、作用について理解する。		
7回	大腿の筋		大腿の筋の起始、停止、支配神経、作用について理解する。		
8回	振り返り(1)		1回～7回までの振り返り		
9回	下腿の筋		下腿の筋の起始、停止、支配神経、作用について理解する。		
10回	足の筋		足の筋の起始、停止、支配神経、作用について理解する。		
11回	股関節		股関節の構造、構成する組織、筋の作用について理解する。		
12回	膝関節		膝関節の構造、構成する組織、筋の作用について理解する。		
13回	足の関節		足の関節の構造、構成する組織、筋の作用について理解する。		
14回	振り返り(2)		9回～13回までの振り返り		
15回	運動器・下肢のまとめ		運動器・下肢全体を通しての振り返り		